

せとく

SELECT

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 <http://www.tokyo-workers.jp>



私の仕事術

かっこいい農業にしたい

岐阜県高山市で生まれ育ち、高校を出て、ホテルで働いていました。専業農家の夫との結婚にあたり、親からは「農家行ったら大変な目に遭うぞ」と言われましたが、「やってみないと分からない」と反対を押し切りました。とはいえ、自分の中にも農家に嫁ぐことへの不安や、周囲が都会に進学や就職をする中で「農業をやると早く老け込むんじゃないか」という心配はありました。なので、最初の目標は「かっこいい農業になってやる」でした。

トマト農家でしたが、自分の責任で「飛騨メロン」の栽培から販売までに携わることで、作るの大変さとたのしさを知り、自分のつくったものを美味しいと喜んでくれるお客様の笑顔を見ることの喜びを知りました。多くの農家は生産すると販売はJAに任せるのが一般的でしたが、他の人と違う方法で売りたいと自分の家の屋号「庄兵衛」を使って、ラベルもかっこいいやつが良いなと一つひとつ手書きで、特製の箱も作りました。直売所で直接お客さんと会うのもいい経験で、自分が楽しいなと思える手応えを感じました。

農家だからできる加工

農業は家族が元々持っていた農地を引き継ぐ家族経営が今までのかたちです。これからは農



飛騨は全国でも有数のトマト生産地。雪解けの3月から作業がスタートし、7月によく収穫期を迎えます。樹で熟した状態で収穫し、できるだけ採りたて味わってもらえることを心掛けています

株式会社寺田農園代表 寺田 真由美

広がるのある農業をめざして



小規模な加工所で生産量に限りがありますが、農家であるわたしたちだからこそできることもあると思っています

業をやりたい人が農業をすべきと考えて、若い人ややりたい人が入ってもらえる入り口にしようと、2010年に夫と一緒に会社を作りました。同時に、私が得意な加工や販売できる施設も思い切って立ち上げました。トマトジュースが作りたいというだけの加工施設でしたが、トマトジュースで稼働するのは3ヶ月くらい。トマトの後に始まる地元のリンゴをジュースにする、冬は雪の下から掘り出す雪下春待ち人参を使ったジュースを作らせてもらい、いろいろな農家とのつながりが生まれました。単に加工するのではなく、農産物の良さを最大限に生かす作り方を考え、農家の思いも汲んだ加工ができるので、現在は100軒以上の農家から依頼も受けるまでになっています。

夢は「食育レストラン」

順風満帆ではありません。2013年に夫が突然亡くなり、何がわからないのかわからない状態になりました。義父母や近隣の生産者の支援を受け、スタッフとともに勉強し、だれでもわかるマニュアルを作り、私たちの社会を作っていました。現在は、個性派ぞろい(?)の11人のスタッフと一緒に、農業の魅力を発信し、風土にあったおいしい野菜作り、子どもたちを“おいしい笑顔”にするものづくりに励んでいます。働きやすい職場環境に取り組み、生産だけではない個の力を活かせる農業を目指し、農業を通じて暮らしの豊かさの価値が上がり、子育てしやすい地域にしたいと思っています。



● たらだ まゆみ ●

岐阜県高山市出身。農業経験年数25年。2010年、株式会社寺田農園設立、代表取締役就任。同時に清涼飲料水製造業・ソース製造業の加工所を設立。「飛騨の風土を生かしきる」農業経営を旨とする。

「地域で働くを考える2024」

エイトボードカンパニー労働者協同組合(東京都板橋区)

「労働者協同組合」での起業は ひとりではできないことを可能にした

板橋区大谷口に溝呂木^{みぞろぎ}崇也さん(法人代表)を中心に理学療法士・作業療法士他5人のメンバーが、介護保険事業のリハビリデイサービスを主事業とする「エイトボードカンパニー労働者協同組合」を2024年6月に設立しました。東武東上線「大山駅」から徒歩15分、東京都水道局給水所の特徴ある塔の真向いに位置する事業所「リハビリデイサービス ネスト」を訪問しました。

「労働者協同組合」の可能性をもとめて

起業のきっかけは『東京新聞』に掲載された「労働者協同組合」の記事に溝呂木さんが目をとめたことでした。40歳代まで2つの医療機関に所属して、作業療法士としての仕事をしてきました。その経験の中で一従業員として、経営実態が見えづらいことを感じていて、「横並びのフラットな働き方」で、経営についてメンバー皆で考えながら事業ができるところに魅力を感じたというのです。また、理学療法士の業務は介助が必要な人の移乗や歩行練習など体力仕事です。60歳以降の働き方のイメージを見つけていくことの必要性も常々考えていたことから、自分で起業したほうが良いのではないかと考えるに至りました。タブレットに起業のイメージを作り、知人たちに声をかけ自分の思いを説明し、「やってみよう！」という5人が集まりスタートしました。

「起業にはリスクがあるので、自分一人では踏み切れなかった。労働者協同組合という事業の形で皆で分担して、起業に向けての様々な準備ができたことが良かったと実感しています。起業を考えているけれど、一人では勇気がない人にも労働者協同組合という法人格を是非お勧めした



溝呂木さん(左)と取材メンバーは東京ワーカーズ・コレクティブの細谷(右)、板橋たすけあいワーカーズあやとりの今澤(奥)

いです」と、溝呂木さん。

立ち上げ資金は出資・融資(組合員全員、家族、日本政策金融公庫)で賄いました。区の創業支援や多くの地銀・信用金庫では労働者協同組合が東京信用保証協会*の対象で無かったため、融資や助成には至りませんでした。また、法人口座の開設や法務局での登記も労働者協同組合の認知度が低く、多くの労力と時間を要しました。厚生労働省や東京都の「労働者協同組合周知活動」は2022年10月の施行時から始まっていますが、まだまだ理解が遅れている状況が、ここでも見えてきました。

*中小企業が、金融機関から事業資金の借入する際に公的な保証人となり、融資を受けやすくすることを目的として設立された公的機関



リハビリデイサービスで扱う機械が置かれている室内

社会活動が継続的にできる事業を

大学で地域福祉を専攻していた溝呂木さんは、社会貢献がしたいという気持ちを強く持って、それを継続的にできる事業は何かを考えました。自分たちの得意を生かして収益を上げられる事業、制度も使える事業、社会活動もできる事業という方向で考え、リハビリデイに行き着きました。メンバー個々の思いを全体の思いにし、それを実現するために収益と継続を検討して事業を選択したのです。一緒に訪問したメンバーから「私たちと真逆だわ……」という声が上がリ、変に納得してしまいました。

ワーカーズ・コレクティブも地域社会に貢献したいという思いから事業を立ち上げましたが、やりたい業種が先にピンポイントであったことが多いように思われます。行政の委託や制度の活用、生協からの委託がない中で、社会状況の荒波に翻弄され孤軍奮闘しているのが現状です。改めて事業継続を念頭に置いて起業のイメージを作ることの大切さを思い知らされました。

ヤングケアラー支援をめざす

事業スタートから3~4か月は目の回る忙しさで、デイサービスを臨時休業する日もありましたが、今は少し落ち着き、「こどもの居場所づくり」や「ヤングケアラー支援」などの社会事業を展開していく予定です。そのための企画として行った「いたばし認地笑(にんちしょう)カルタ大会」は子どもと高齢者が一緒に参加しました。「スイカたた



リハビリデイサービス「ネスト」入口



世界最小の鳥「エイトボード(ハチドリ)」のように小さな力でも自分のできる事を続けて地域社会を良い方向に!との思いを込めて。

き」はチーム制で様々な背景を持っている子どもたちが混ざり合っ楽しんでました。このような小さな社会事業の実績を積み重ねて、将来的に行政の委託事業をとっていきたいと考えています。

溝呂木さんは、労働者協同組合の法人格を取得したことについて、「社会的に注目されていることから、新たな人のつながりが沢山出来てよかった。協同労働の意味をメンバー全員で共有していくにはもう少し時間がかかると思う」と話します。

労働者協同組合のキモでもある協同労働は、ワーカーズ・コレクティブも常に磨きをかけなければならない部分です。共に切磋琢磨していきたいと思いました。

取材:和田安希代(東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事長)



リハビリデイサービスの向いにある東京都水道局給水塔

配送ワーカーズ轍(生活クラブ生協業務受託)が新規事業に挑戦

地域内はもちろん、地域を超えた心強い新たな取り組みを紹介します。

えっさほいさ
リサイクルショップ
「わだちえっさほいさ」



企業組合ワーカーズ・コレクティブ轍ケイアッシュ(小平市)は、配送メンバーの高齢化への対応と、働き続けられる職場を目指し、配送のスキルを活かせる片付け事業「わだちえっさほいさ」を立ち上げました。片付けでの分別の徹底で環境に配慮し、使えるものリサイクル、リユースしています。7月に新たに「リサイクルショップ わだちえっさほいさ」をオープンしました。リサイクルショップを通じて、地域との繋がりを深め、地域を元気にしていきます。

小平市美園町 1-8 1号棟 101 (小平駅南口徒歩1分)
TEL:042-309-6363 営業時間:11~18時 (水・日曜日休み)



リサイクルショップ わだちえっさほいさ店頭



共に働く事業所
片づけ&リユースショップ
「はちどり」



企業組合ワーカーズ・コレクティブ轍あい(町田市)は新事業として、6月に共に働く事業所 片づけ&リユースショップ「はちどり」を町田木曽団地名店街にオープンしました。「寄り添いながら」をモットーに掲げて、働きづらさを抱えている人も共に働くことができる場を目指しています。片づけ事業を行い、リユースショップを開くことによって、少しでも「もったいない」を減らしたい。気持ちに寄り添うことを大切にすることで、少しでも住みやすい地域づくりにつなげていきます。

町田市本町田 2533 ハ12-102 (町田木曽団地名店街)
TEL:042-716-0100 営業時間:月~土 10~17時 (日・祝・第二水曜日休)



片づけ&リユースショップ はちどり店内

ワーカーズ・コレクティブ 7月21日
夏祭り わっしょい!!

練馬区立区民・産業プラザ Coconeri ホールに、東京で活動しているワーカーズ・コレクティブが集まり「夏祭り わっしょい!!」を開催しました。全参加者は150名で、事業アピールや就労相談、体験イベント、物品販売などを行いました。



事業所たちの大交流会



おなじみの「かんしょ踊り」

7月26日
区市町村職員向け
「新しいまちづくりセミナー」

東京都は「労働者協同組合」連続4回(7月~9月)の周知学習会を自治体職員に参加を呼びかけ、セミナーを行ないました。

第1回セミナーでは福祉分野として「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」の事例報告を東京ワーカーズ・コレクティブがおこないました。

非営利事業である「労働者協同組合」はフラットな働き方を法的に位置づけています。地域課題を共に解決し、継続的に事業活動が行われることは、顔の見える自治体のまちづくりのパートナーとなることを事例で報告しました。

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.97

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階

TEL:03-3207-1941 FAX:03-3207-1945

E-mail office@tokyo-workers.jp

http://www.tokyo-workers.jp

発行日 2024年10月31日

編集 ワーカーズ・コレクティブ 企画編集のもの

年間購読料 600円(年4回発行)